

にちぎん誕生

～日本銀行の創立と業務の開始～

A Special Exhibition on Bank of Japan's 120th Anniversary

開催期間：2002年9月28日(土)～2002年12月15日(日)

休館日：月曜日、祝日

ごあいさつ

日本銀行は、今から120年前の1882年(明治15年)10月10日、永代橋のたもと(現在の日本橋箱崎町)にあった旧北海道開拓使出張所の建物を本店として開業しました。

明治維新以来、明治政府は、混乱した貨幣制度を建て直すために、新貨条例や国立銀行条例を制定するなど貨幣制度の近代化に努めました。しかし、1877年(明治10年)に勃発した西南戦争の戦費を政府紙幣の増発でまかなったため、膨大な紙幣が流通するようになりました。その結果、紙幣価値が大幅に下落し、紙幣に対する信用は大きく揺らぎました。1881年(明治14年)、大蔵卿に就任した松方正義は、緊縮財政によって政府紙幣の回収を進め、紙幣価値の安定と正貨の蓄積を図る「松方財政」を推し進めました。松方正義はまた、欧州各国の中央銀行をモデルに、「一国金融の心臓」として日本銀行の設立を提案し、紙幣発行権を日本銀行に集中させ兌換券の発行を目指しました。

今回の企画展では、日本銀行設立の経緯とともに、日本銀行券発行などの中央銀行としての業務を開始していく永代橋時代(明治15年～20年代)の日本銀行を、日本銀行金融研究所アーカイブおよび貨幣博物館が所蔵する歴史的資料により、ご紹介します。

日本銀行金融研究所 貨幣博物館

日本銀行のあゆみ

<今回の企画展>

1868年(明治元年)	明治政府、「太政官札」発行
1871年(明治4年)	新貨条例公布(円制定、金銀貨発行)
1872年(明治5年)	国立銀行条例公布
1877年(明治10年)	西南戦争
1881年(明治14年)	松方正義 大蔵卿に就任
1882年(明治15年)	日本銀行条例公布、日本銀行開業
1885年(明治18年)	日本銀行券(兌換銀券)の発行開始 → 銀本位制度確立へ

<その後～現在>

1896年(明治29年)	日本銀行本店、本石町へ新築移転
1897年(明治30年)	貨幣法公布(金本位制度確立)
1927年(昭和2年)	金融恐慌発生
1931年(昭和6年)	金輸出再禁止、銀行券の金兌換停止 → 管理通貨制度へ
1941年(昭和16年)	太平洋戦争勃発
1942年(昭和17年)	日本銀行法施行
1946年(昭和21年)	新円切り替え (旧円券を回収し、新円券に切り替え)
1998年(平成10年)	日本銀行法改正

日本銀行が開業した1882年(明治15年)の主な出来事

<政治・経済・社会>

- ・ 軍人勅諭発布
- ・ 伊藤博文、憲法調査のため渡欧
- ・ 大隈重信、立憲改進黨結成
- ・ 板垣退助、岐阜で襲われる
- ・ 東京馬車鉄道会社開業

<文化>

- ・ 大隈重信、東京専門学校(のちの早稲田大学)を開校
- ・ 中江兆民訳「民約訳解」(ルソー著)
- ・ 上野博物館開館、上野動物園開園
- ・ 文部省、「小学唱歌集」初編(蝶々、蛍の光など)
- ・ 嘉納治五郎、講道館設立
- ・ フランスの画家ピゴー、来日

<国外>

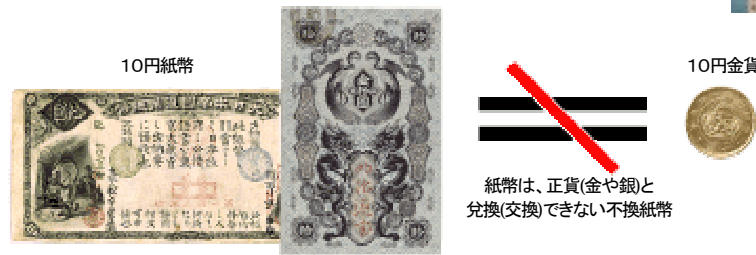
- ・ ビスマルク主導のもとドイツ・オーストリア・イタリアの三国同盟成立
- ・ コッホ(ドイツ)、結核菌を発見

● 明治初期の貨幣制度 ～ 欧州主要国が金本位制に移行するなかで ～

明治新政府は、欧米先進国と肩を並べる強国を作るため、富国強兵、殖産興業（近代産業育成）の政策を進めました。そのためには幕末に混乱した貨幣制度を建て直すことが必要でした。明治政府は、金本位制に移行していく欧州主要国の動きを眺め、近代的な貨幣制度を確立することを目指しました。

明治政府は、1871年（明治4年）『新貨条例』を制定し、「円」を基本とした十進法の新しい貨幣単位の採用（「円の誕生」）や、金貨を本位貨幣として無制限に通用させ、銀貨や銅貨を補助貨幣とすること（金本位制の採用）などを定めました。しかし当時の日本では、金や銀が不足し金貨や銀貨を思うように製造できなかったため、実際には、金貨や銀貨と交換（兌換）できない不換（ふかん）紙幣である政府紙幣に頼らざるを得ませんでした。

そこで、明治政府は、1872年（明治5年）『国立銀行条例』を制定し、条例に基づく民間銀行を設立し、兌換銀行券を発行させることによって、政府紙幣（不換紙幣）の回収と殖産興業資金の供給を図ろうとしました。しかし、設立された国立銀行はわずか4行にとどまったため、1876年（明治9年）国立銀行の設立を促すために『国立銀行条例』が改正されました。条例改正により、国立銀行紙幣の正貨兌換が廃止され、国立銀行紙幣は政府紙幣と同様に増発を招きやすい不換紙幣になりました。



そうしたなか、1877年（明治10年）西南戦争が勃発し、明治政府は巨額の戦費を不換紙幣の増発でまかないました。その結果、膨大な紙幣が流通するようになり、紙幣価値は銀貨1円＝紙幣1円80銭（紙幣と銀貨の交換相場）にまで暴落し、紙幣に対する信用は大きく揺らぎました。



西南戦争後の紙幣価値の動揺
「欲の戯ちから競」(米俵と紙幣の首引)
… 役人の服を着た政府紙幣「明治通宝札」が米俵に引き寄せられています。

● 松方財政と日本銀行創立

1881年（明治14年）10月、大蔵卿（のちの大蔵大臣、現在の財務大臣）に就任した松方正義は、紙幣価値の下落は過剰に発行された不換紙幣が原因であると考えました。そこで、松方大蔵卿は、緊縮財政によって財政剰余金を捻出し、それをもって政府紙幣（不換紙幣）の整理・回収と正貨（当時は銀貨）の蓄積を図る難事業、いわゆる「松方財政」に不退転の決意をもって取り組みました。

松方大蔵卿はまた、欧州各国の中央銀行をモデルに「一国金融の心臓」として日本銀行の設立を提案し、日本銀行による兌換銀行券の一元発行、日本銀行を中心とする近代的な通貨・金融制度の確立を目指し、1882年（明治15年）6月、『日本銀行条例』が公布されました。



松方正義

● 日本銀行開業 1882年(明治15年)10月10日

『日本銀行条例』公布を受けて、日本銀行開業に向けた株主の募集、本店開設場所の選定などの準備がわずか4か月あまりで進められ、1882年（明治15年）10月10日、日本銀行は永代橋のたもと（現在の日本橋箱崎町）で開業しました。開業時の日本銀行は、5局13課、わずか55名の組織でした。また、開業後10年間は本店と大阪支店のみで営業を行い、地方に支店等を設置するのは1891年（明治24年）以降です。



開業当時の本店

● 中央銀行としての業務開始

◇「銀行の銀行」としての業務

日本銀行は、開業と同時に、「公定歩合」にあたる公債証券抵当貸付利率の割合や商業手形割引の歩合を定め、「銀行の銀行」としての業務を開始しました。開業当初は、金融制度を整備し、対民間取引を拡充していくことも重要な課題のひとつであり、全国の金融を円滑にするため、国立銀行・私立銀行とコレレ

◇「政府の銀行」としての業務開始～国庫・国債事務

近代化政策を進める明治政府にとって、地租改正（1873<明治6年>）をはじめ近代的な租税制度を確立し国家財政の基礎を固めること、また、全国の租税を迅速・確実に中央に集中させ、これを政府の支払いに充てる統一的な国庫制度を確立することは、急務の課題でした。当時、国庫金の取扱事務は、大蔵省の出納機関が行い、一部は各地の国立銀行などに委託されていました。日本銀行は、松方大蔵卿の命により1883年（明治16年）7月から国庫事務を開始し、日本銀行を中心とする国庫および国債事務の体制が整備されていきました。

スポンデンス（為替契約）を締結し、各地方との間で送金為替を行う体制を整える、官営工場に対し手形取引を提案し、官営工場の取引を通じて民間への手形普及に努める、といったことにも力を注ぎました。



国庫金取扱命令書

◇銀行券に関する最初の業務～国立銀行紙幣の整理

日本銀行は、開業時には銀行券の発行を認められていませんでした。銀行券に関する最初の業務は、国内で流通していた巨額の国立銀行紙幣を処分することでした。松方大蔵卿は、1883年（明治16年）『国立銀行条例』を改正し、国立銀行は営業期間（開業免許日より20年間）満了後に私立銀行に転換し、国立銀行紙幣の発行を認めない、日本銀行は国立銀行紙幣の引換えを行う

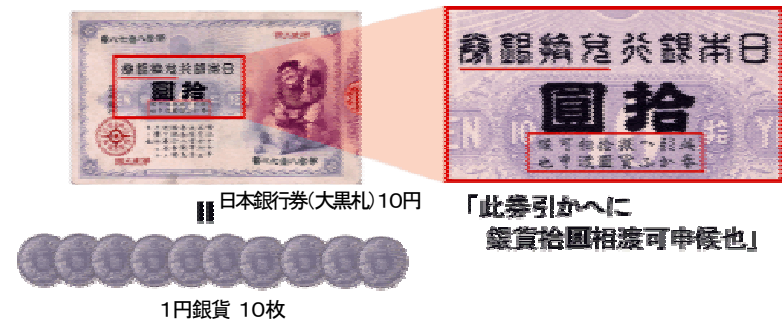
ことを定め、日本銀行が国立銀行紙幣を15年間で計画的に整理（消却）していく体制を整えました。そして日本銀行は、1883年（明治16年）11月から国立銀行紙幣の整理（消却）事務を開始しました。

● 日本銀行券“兌換銀券”の発行～銀本位制確立へ～

松方大蔵卿は、紙幣価値が回復してきた1883年（明治16年）、日本銀行による兌換銀行券の発行を決意し、翌1884年（明治17年）5月、『兌換銀行券条例』が公布されました。条例を受けて銀行券の製造や発行手続き制定などの準備が進められ、開業から2年半後の1885年（明治18年）5月、最初の日本銀行券が発行されました。これにより中央銀行としての日本銀行の基礎が整いました。

日本銀行券は、『兌換銀行券条例』により、銀貨兌換を行う兌換銀券とされ、また、銀行券発行高に対し相当の銀貨を置き引換え準備に充てることが求められていました。日本銀行券は広く受け入れられ、その流通高は順調に増加していきました。

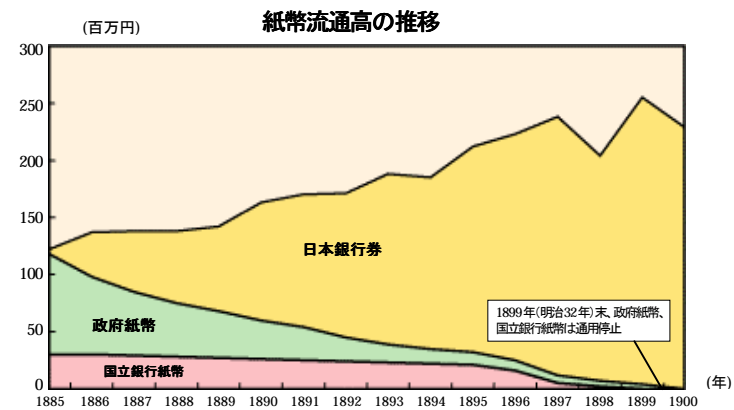
こうして、紙幣に対する信用は回復し、日本銀行券による紙幣統一へと向かい、また、銀本位制も確立して、幕末以来の貨幣制度の混乱に終止符が打たれることになりました。



なお、松方大蔵卿の理想は金貨兌換（金本位制）でしたが、当時、日本で蓄積していた正貨が銀であったことなどから、まず銀貨兌換（銀本位制）を確立しました。金本位制が確立するのは1897年（明治30年）であり、その時、内閣総理大臣は松方正義でした。

<< 松方正義の『紙幣整理始末』 >>

『紙幣整理始末』は、松方正義が成し遂げた紙幣整理政策の詳細な報告書で、1889年（明治22年）、時の内閣総理大臣三条実美あてに提出されました。その冒頭には、『正義は、紙幣整理の始末を閣下に報告するの栄を有す。今日始めてその成功を致せしは、実に我家（日本）の幸福と言わざるを得ず。何となれば、今日我国の幣制は純良の正貨を基礎として、伸縮自在の兌換券をもって融通を助くるの組織にして、各国幣制中、最も完全なるもの一つ。』(要旨)と記載されており、日本銀行券発行にいたるまでの難事業をやり遂げた松方の率直な気持ちを伺い知ることができます。



ジョサイア・コンドルによる設計図 ～ 日本銀行開業当時の本店建物設計図～



旧北海道開拓使出張所（開拓使物産売捌所）設計図について

日本銀行は、1882年（明治15年）10月10日、永代橋際にあった北海道開拓使（1869年<明治2年>7月設置～1882年<明治15年>2月廃止）出張所の建物を本店として開業しました。

この建物は、明治政府が招いたイギリス人建築家ジョサイア・コンドルによって設計され、1881年（明治14年1月）に竣工しました（なお、建物は関東大震災で焼失しました）。

ジョサイア・コンドルは、工部大学校造家学科（現 東京大学工学部建築学科）で日本人建築家を育成するとともに、上野博物館、ニコライ堂、鹿鳴館など多くの設計を通じて、日本の近代建築の発展に貢献しました。

今回の企画展示では、日本銀行金融研究所アーカイブで保管している旧北海道開拓使出張所（開拓使物産売捌所）の設計図の一部*をご紹介します。設計図は、記載されたサインから、1878～1880年（明治11～13年）にコンドルによる工部大学校の実習として製作されたものと考えられています。

* 日本銀行金融研究所アーカイブで保管している設計図全52枚の画像については、館内情報提供パソコン、アーカイブ・ホームページ(http://www.imes.boj.or.jp/cm/digitalroom/condor/con_index.htm)でご覧頂けます。

期間前半（9/28～11/3）は以下の6点を展示します。

期間後半（11/5～12/15）は以下の6点を展示します。

・『PROPOSED SALE ROOMS』 立面（南・東面）、平面（1・2階）



・『No. 6』 断面（南北・東西）



・『Design for Wall Paper for Kiakuma』 客間ノ壁ニ粘スル紙形之図』 客室壁紙図案

・『DECORATION OF DRAWING ROOM』 客室室内展開（北面）

・『No. 3』 平面（1・2階）

・『DETAILS』 東側出入口詳細

・『DECORATION OF BILLIARD ROOM』 玉突室室内展開（北面）

・『饗応室之図』 食堂室内展開（北面）

・『DETAILS』 正面玄関（南側）詳細

・『No. 5』 立面（北・西面）

・『DETAILS』 1階窓詳細

・『DECORATION OF DRAWING ROOM』 客室室内展開（西面）

日本銀行金融研究所 貨幣博物館
〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-1（日本銀行分館内）
TEL: 03-3277-3037
貨幣博物館ホームページ: <http://www.imes.boj.or.jp/cm/>